

魔法のプロジェクト FY23 活動報告書

報告者氏名:川井 健二 所属:大阪府立思斉支援学 記録日:2024年1月9日

キーワード:コミュニケーション指導 シンボルコミュニケーション

【対象児の情報】

- ・学年 中学部第1学年
- ・障害名 自閉症
- ・障害と困難の内容
知的障がいを伴う自閉症

【活動目的】

当初のねらい

- ・要求の方法や種類が少ないため、他者に伝わり辛い。
→pecsや絵カードなどを用いて伝達手段を増すことで意思表示ができるようになる。
- ・気持ちが伝わらないときの自傷や他傷がある。
→伝達手段が増え、伝わるようになれば、精神的に安定して結果的に自傷・他傷が減るようになる。
- ・表出語彙が少なく、「あー」などの音声で伝えようとする。
→絵カードに書いてあるひらがなを発音させることで表出語彙取得につなげる。

実施期間

2023/06/01 ~ 2024/02/28

実施者 川井 健二

実施者と対象児の関係 学級担任

うになってきた。トイレに行きたいときは「トイレ」と発語で伝える場面がでてきた。下腹部あたりを指さすことがほとんどだが、「どうしたの」と尋ねると、「トイレ」と伝える場面が増えた。また、いやなことがあるときは、その場所を離れるために、授業をしている場所を指で「2」を示して移動する場面が増えてきた。しかし、まだほとんどの行動が音を発するだけのため、相手に伝わらず、本人が本当に望んでいることが実現されずにコミュニケーションが終わることが多い。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象生徒は発声のみによる要求がほとんどを占めており、伝わらないことが多く、そのことから不安定になる場面もあった。シンボルによる伝達方法やジェスチャーによる伝達方法を試すことで、伝えられる内容が増えた。結果、不安定になる回数が少しだけ減ったように感じた。本人は他者の興味を引くために声を出すこともあり、本人の意欲がある内にコミュニケーション手段を増やす必要性を感じている。

・エビデンス(具体的数値など)

今回の取り組みでは、本人が iPad にあまり興味を示さず、使い方を教える以前に、シンボルカードを活用し、発音を教えることやジェスチャーなどの簡易的なコミュニケーションを習得する活動に取り組むことが優先事項だと考え、ICT 機器を使用するところまで行くことができなかった。しかし、カードやジェスチャーを使用した意思表示に取り組む中で、対象生徒は発音が明瞭にできる場面が増え、ジェスチャーや音声、カードを示すなどの方法で意思を伝えようとする場面が増えたこともあり、一定の効果は得ることができたと考える。

今後も意思表示ができる方法を増やすために、様々な取り組みをしていく。いずれは ICT 機器に置き換えていき、手段を増やすような取り組みをしていく。